



冬季の下痢と呼吸器病を 予防しましょう！

冬になると牛の下痢症や呼吸器病が発生しやすくなります。
発生してしまうと、子牛の発育不良や乳量減少等、大きな経済的損失を
引き起こしてしまうので注意してください。

予防対策

まずは予防が大切です。予防対策のポイントを紹介します。

✓ ワクチン

IBR5種混合ワクチン、牛下痢5種混合不活化ワクチンなどのワクチンは、
病気の発症を予防し、万が一発症しても軽症で済むことが期待できます。
詳細は診療獣医師または家畜保健衛生所にご相談ください。

✓ 環境を整える

清潔な環境づくりはストレスの軽減も期待できます。



こまめな
敷料交換



こまめに
換気

汚れた敷料は病原体が増殖しやすい！
濡れた敷料は体温が奪われてしまう！

✓ 子牛の管理

子牛を寒さから守る工夫をしましょう！

- カーフジャケット
- ネックウォーマー
- カーフハッチ
- 保温用ヒーター
- 適温を保つ



適温は
18°C



✓ 導入牛の管理

- 輸送中の十分な給水
- 導入時のビタミン剤投与
- 導入後約2週間は隔離飼養し、健康観察をする。



✓ 病気を持ち込まない・持ち出さない

- 車両消毒 ・石灰帯の設置
- 踏込消毒槽による靴底消毒の徹底



✓ 早期発見・早期治療

発見が遅れると重症化し治療にも時間がかかります。
異常を見つけたらすぐに診療獣医師または家畜保健衛生所にご連絡ください

下痢や呼吸器病の原因・症状は??

原因

コロナウイルス、ロタウイルス、RSウイルス等様々なウイルスや細菌、マイコプラズマが原因となります。

冬は、①寒冷感作によるストレス ②病原体が不活化されにくい季節 ③病原体が伝播しやすい舎飼の環境が引き金となり下痢や呼吸器病が発生しやすい季節です。

主な症状

【牛コロナウイルス病】

(子牛)

・乳白色～黄色の水様下痢・発咳・鼻汁

(成牛)

・冬季赤痢・発咳・鼻汁

【牛ロタウイルス病】

(子牛)

・黄色、淡黄緑色、乳黄色下痢便・発熱

(成牛)

・泥状～水様下痢

【牛RSウイルス病】

- ・5～6日の稽留熱・湿性の発咳・膿性鼻汁・皮下気腫
- ・伝播スピードが速い
- ・細菌、マイコプラズマとの混合感染では症状が悪化。

**対処が遅れると近隣農家へ感染が拡大する恐れがあります。
異常を感じたらすぐにむつ家畜保健衛生所まで連絡してください。**

異常を発見したらすぐにむつ家保まで!!!



下北地域県民局地域農林水産部むつ家畜保健衛生所
むつ地区家畜衛生推進協議会

〒035-0072 むつ市金谷2丁目 18-25

電話 0175-22-1254 FAX 0175-22-1259

夜間・休日の連絡先 090-5841-6810